

が知る限り道東だけです。
四つ目は、ほとんどの学生が東京から来ることになると思いますので、町が釧路空港の近くにあるというのも大きいです。

Q机上の勉強だけではなく、学校では実際に実技、実演で学べるというのが大きいのと思いますが、具体的にどういった技術が学べますか。

沼田…一般的には溶接や掘削の技術などです。こういうものの多くは、現実には免許がなければ作業してはいけません。しかし、多くの場合、学校にはそういう機材もないので、免許を取りに行けません。ほとんどが、就職してから免許を取得しますが、免許を取るまでの数カ月間は実際に作業することができないのです。このことが、私は矛盾していると思っています。もう一つは、日本が学校を作ったのはベトナムなんです。フィリピンの方やタイの方、一番多いのはベトナムの方ですが、そういう方々が日本に来て掘削をしています。9割以上が山の上での作業になります。ベトナムやタイの方は、日本人より一回り小柄な方が多く、寒さにもなれていません。

ですから、日本に来てでも重たいものを持ったり、それ以上に寒さに耐えられず、冬の掘削ができていないのが現状です。これも問題だと思っています。

私を実技で重要視しているのは安全面です。一番最初に安全面をしっかり確保したうえで、実技を学び、現場に行っていたらいいという思いです。

Q学生寮などでの地元の雇用は何人くらいを予定していますか。

沼田…5人以上と考えていますが、まだスタート段階ですので、増える可能性はあると思います。

Q学校等の施設の着工は何月からいになりそうですか。

沼田…3月中旬に業者を選定し、その後すぐに着工したいと思っています。敷地に関しては、少しかまぼこ型状になっていますが、その形が一番使いやすいので、その形のままで使用します。建設地は、実際に放牧されていたところなので、牧草がありますが、そういうところを生かした学校づくりをしたいと思っています。校舎や学生寮、あとは練習場などを作ります。最初



町おこしエネルギー事業開発部の岡本道明部長

はコア試料の保管場所としてD型ハウスを3棟建設します。学生寮は2階建てで先生は1階、生徒は2階で、2人用の部屋を40部屋で計画しています。80人は入れるようにします。

Q学校を卒業された方の雇用はどう考えていますか。

岡本道明部長（以下…岡本）掘削業者もいろいろあります。全国ボリング技術協会などの協会に加盟されている業者も多数ありますが、どこの業者も人集めには大変苦労されています。今回、学校ができますと、学校を訪問していただければ人が雇えますので、そういうところに就職をあっせんして

いきたいと考えています。

Q北海道私立学校審議会で設置計画が了承されたということですが、改めてジオパワー学園の学校法人設立がいつ頃になるかを教えてください。

岡本…建物が全部できて、私学審議会の許可が出た時点で、学校法人として認可されるということですので。2021年6月には最終の許可を得たいと考えています。今回は計画の許可ということです。

